

第 23 回つくば市公共交通活性化協議会 議事概要

1 開催日時・場所等

日時：平成 27 年 8 月 7 日（金） 15：00～17：00

場所：つくば市役所 6 階 全員協議会室

出席委員：石田会長ほか 29 名

2 議事内容

(1) 平成 27 年度第 1 四半期つくバス・つくタク実績報告について【報告事項】

(意見等)

- つくバスの 5 年間の動きの中で、利用者が 60 万人から 90 万人に増えているが、これは周知活動だけではなく他にも要因があるのか、一番運行の見直しがなされた部分はどこなのか。
- 資料 1 の 3 ページの左側で北部シャトルの利用増は望ましいことであるが、一番混んでいる時の混雑状況はどのようになっているか。(時間帯によっては満員状態で運行されているのか)

(2) 平成 28 年度以降のつくバス・つくタク運行計画について【報告事項】

(意見等)

- 閉庁時間帯のつくば市役所停留所の取り扱いについて、研究学園駅とつくば市役所は近いので、駅を経由して最終的に市役所を発着とする考え方もある。
- 研究学園駅とつくば市役所間は無料という案もある。
- 市役所のバス停と研究学園駅は近いが、それなりに所要時間を要する時間設定をしている(遅れを取り戻す、時間の調整をしている要素もある)、これを含めて検討していく必要がある。
- 高齢者半額を廃止し 300 円に戻し、病院に行くとき帰りのチケットを無料でもらえる仕組みにするなど、割引券や無料券を施設側に負担してもらうというのはどうか。つくタクの利用者はこれまで通りの負担のまま、市は負担が軽減されるため、病院や商業施設に一部負担いただくという案もある。
- 目的地が病院や商業施設なのであれば、その施設を巻き込んだ形で、料金システムを見直してはどうか。
- 平成 28 年度以降のサービス概要の中で、つくバス吉沼シャトルと作岡シャトルの交差部分の見直しの検討に関して、目的地がつくば駅と研究学園駅の違いがあるため、その需要を予測、調整することができれば、路線を入れ替えることもできる。
- 両方(吉沼シャトル、作岡シャトル)とも両駅(つくばセンター、研究学園駅)に接続できれば理想である。

- つくバス北部シャトルについて、民間への権限委譲という点は今後どのようにしていくのか。
- つくタクについて、利用する人は何回も利用しているが、お断り等で利用できない人はあきらめて使っていない人もいる。利用者について、利用回数を制限して広く使ってもらおうという考え方はないか。
- つくバス利用者の増加の原因について、細かい積み上げもあると思うが、実質的にはつくば市の人口が伸びているという状況があり、開発当初からだ沿線開発区域で2万人ほど人口が伸びている。TXの開発とあわせてバスの利用が増えてきたことが要因としてある。バスとTXで行動範囲が広がっている中で、TXとの相乗効果があるとも考えている。この点も含めて、ルート設定していくことが重要と考えている。
- 検討のスケジュールに関して、9月16日に幹事会をして、10月に協議会となっているが、幹事会の議論の内容がわかる資料を皆さんに配付して、10月の議論の質を高めたい。
- ハブがすべて駅になっているが、小さな拠点の整備に関連して、窓口センターもハブになりうる場所はあるのではないかと、ということを考えていくべき。
- つくタクに関しての税金負担は高いため、この点をどう理解していくかはもう少し考えたほうが良い。つくタク利用者の8割が高齢者で、1割が身体障がい者でもう2割が子供という現状であり、かなり偏っている。必要なサービスで定着してはいるが、福祉色が強いサービスとなっていることをどう考えるのか。市の税負担の問題があるため、福祉色を強めるならば、再定義、再整理が必要なのではないか。
- ハブアンドスポークについて、つくば市の拠点整備とも関連して整理していただきたい。
- つくバスは路線ごとに特色があり、吉沼や作岡シャトルは8月の利用者が多く、地域型で通勤通学や速達性ではない。北部や南部シャトルは通勤通学の路線バスに近い位置づけになっていて、異なる特色を活かすことも検討事項だと思う。
- つくタクについては、目的地が決まっていることから、目的地の施設に運行に要する経費の一部を負担してもらおう案は、過去のバスの実験で、大型商業施設からは理解が得られなかった経緯がある。今度実験するときは切り口をうまくやれば、市の負担も軽減できる。福祉の側面から考えるのであれば、うまい取り入れ方があるのではないかと。
- 巡回つくタクの利用する場所は限定され、利用者も特定されてくると、タクシーというよりもバスという感じがする。つくバスの小型の方が良い。福祉は福祉で特化して、パーソナルのサービスをタクシーとする。
- 巡回つくタクは面白いと思うが、つくタクの利用者がどこからどこへ移動しているのかを知ったうえで、使えるかどうかを考えた方が良い。

(3) つくば市地域公共交通網形成計画策定について【報告事項】

(意見等)

- つくばモビリティ・交通研究会があり、細かいデータがそろっている。昨年度、国土交通省総合政策局で公共交通活性化のためにデータをどう使うかの検討会を行っており、そこでもいろいろなデータがあるため、これらのデータの活用が考えられる。
- 網形成計画の策定にあたり、資料3-1の2ページの業務内容の(ア)で国勢調査とあるが、これは5年前のデータか。

(4) つくバス ダイヤ改正について【報告事項】

(意見等) なし

(5) 地域公共交通外出支援事業の実施について【協議・承認事項】

(意見等)

- お試し券は、100円×4枚ではなく（子供料金に対応できないため）、50円券×8枚で作成する予定である。この事業は現在、つくば市の他に県内の6市町村で実施予定となっており、この他でも導入予定だが、買い物の割引券の数が少なく、導入されないことがネックとなっている。
- 事業は12月15日まで実施されて、結果は活性協に報告されるのか。お店の売上含めて、買い物割引券の効果が出るのであれば、無料乗車券を商業施設へ働きかける際にも利用できると思われる。

3 その他

- 昨年度のまつりつくばでは、半額割引券を知らない運転手がいて、全額支払ったということがあったので、周知を徹底してほしい。